

旧三河島汚水処理場脚筒場施設が 国の重要文化財に指定されて今年で10年

三河島水再生センターは、日本で最初の近代下水処理場「旧三河島汚水処理場」として大正11年に運転を開始しました。時代とともに最新の設備が導入されましたが、下水を地下から処理施設へ汲み上げる脚筒場は、平成11年まで当時の状態を残したまま使用され、その歴史的価値から平成19年12月に国の重要文化財に指定されました。



三河島重要文化財見学受付

☎ (6458) 3940
受付時間：午前9時～午後5時
月・水・木・土・日曜日、祝日
(火・金曜日、年末年始を除く)

▲レンガ造りが美しい大正時代の歴史的な施設

キャンドルナイト in 三河島 3600個のキャンドルで照らす歴史

日本の近代下水処理発祥の地、三河島。当時の姿をそのまま残した歴史的建造物を、3600個のキャンドルの灯りで包み込みます。

- ◆日時 12月22日(金) 午後5時30分～8時30分
※荒天の場合は12月23日(土・祝)に顺延
- ◆場所 三河島水再生センター(荒川8-25-1)
- ◆入場料 無料



第七峡田小 ビオトープで環境について学んでいます

第七峡田小学校には、「七峡ビオトープ」があります。ビオトープとは、自然の生態系を身近に感じられる空間のことです。

七峡小には、森(水湿地林)・原っぱ・池・山などとも広いスペースがあり、自然や環境などについてさまざまな学習ができます。



授業では「ビオトープ学習」も行われていて、春の授業では、講師の方から湿地に住む昆虫や草花の話や聞き、貴重な体験をしました。

◀「七峡ビオトープ」の池にはたくさんの生き物が住んでいるんだよ!

懐かしいあの日の時

思い出写真館

No.41

昭和54年ごろの荒川自然公園

昭和54年に公園南側のアスレチック広場や水辺広場、昆虫観察園などが開園しました。開園後は、区民の公募により「三河島処理場公苑」から「荒川自然公園」に名称変更されました。公園内は、季節ごとの自然観察やウォーキングなどで楽しめます。



▲開園当初のアスレチック広場は、多くの親子でにぎわっています

三河島水再生センター 施設断面図

公園の下 とても深い ところまで 施設が あるんだ	地上 荒川自然公園
1階	第一沈殿池 反応槽 第二沈殿池
地下	汚水ポンプ 汚泥ポンプ

●水再生センター見学受付窓口
☎ (3241) 0944
受付時間：午前9時～午後5時
月～金曜日(祝日、年末年始を除く)

「ここは下水を最初に処理する場所なので、臭いが広がらないようにカバーがしてあります。でも、せっかくだから中を見てみましょう」と高橋さんが開閉スイッチをON。カバーがゆっくりと開き、茶色の下水が見えてくる。「うわっ、汚いね」とジュニア記者から思わず声がかかります。しかし、高橋さんから「これがみんなの家から出た下水だよ」と教えてもらうと「こんなに汚いのか」と微妙な面持ちで聞いていました。

そして最後の第二沈殿池では、水がすっかりきれいになっていくのを見て感心するジュニア記者。高橋さんは「皆さんが何気なく使った水も、ここできれいにして自然に返すことで、環境を守ることができ、きれいな水が使える生活を下水道が支えていることをぜひ覚えておいてください」と話してくれました。水再生センターの見学を通して、下水道と水の大切さをしっかりと学ぶことができました。みんなも水を大切にしましょう。

私たちが使った水はこんなに汚れている

「ここは下水を最初に処理する場所なので、臭いが広がらないようにカバーがしてあります。でも、せっかくだから中を見てみましょう」と高橋さんが開閉スイッチをON。カバーがゆっくりと開き、茶色の下水が見えてくる。「うわっ、汚いね」とジュニア記者から思わず声がかかります。しかし、高橋さんから「これがみんなの家から出た下水だよ」と教えてもらうと「こんなに汚いのか」と微妙な面持ちで聞いていました。



▲(左から) 松本優梨羽さん、内田ゆりかさん、松本杏吹くん、末吉希理くん

微生物の働きで水がきれいに

次に向かったのは、水の中にブクブクと空気が送られている反応槽。「微生物に汚れを食べてもらい、水をきれいにしていきます」と高橋さん。実際に顕微鏡で微生物を観察したジュニア記者は「本当に食べてる!」と、夢中でぞき込んでいました。

3 第三沈殿池

もう一度沈殿池へ入り、今度は汚れを食べた微生物を3~4時間かけてゆっくりと沈めます。沈んだ微生物の入った泥は、反応槽に戻して再利用し、きれいになった処理水は消毒処理をして隅田川へ放流します。



▲高度処理した下水は、きれいな水でしか生きられないサンゴを元気に育てることができます

微生物のおかげで水がきれいになるんだね

中央監視室は、下水処理の司令塔



24時間 下水処理を監視しているのよ

「水再生センターのすべての設備をここで操作します。とくに大雨の時は下水の水量が増えるので水位計から目が離せません」

▲三河島水再生センター長 高橋明宏さん

1 第一沈殿池

大きな汚水ポンプで汲み上げた下水を2~3時間かけてゆっくりと流し、下水に混じっている汚れを下に沈めます。上澄みの水だけ次の反応槽へ送り、沈んだ汚れは汚泥ポンプで汚泥処理施設へ送って焼却します。



▲第一沈殿池の地下にある大きな汚泥ポンプ。沈殿池の汚泥はこの汚泥ポンプで吸い出し、処理場へ送られます

僕たちの街に、こんな施設があったんだ

どんな施設なのかな?

三河島水再生センターの仕組み

荒川自然公園の下にある三河島水再生センターは、どのような施設なのでしょう? 第七峡田小学校6年生のジュニア記者4名が、下水をきれいに浄化する仕組みを取材しました。